



湖北



「まちづくり役場」に展示されたつくり役場」に
長浜市の中心市街地一帯で店先などに飾られたひな人形を鑑賞できるイベント「長浜のお雛さまめぐり」が3月8日まで開かれた。商店街をくまなく歩くと約70セットのひな人形に出会える仕掛けで、ショーウィンドーや店内に並んだひな人形が街を彩った。NPO法人「まちづくり役場」(同市元浜町)が客足の落ちる冬場の街のにぎわいを取り戻そうとイベントを始め、今年で16回目。

まちづくり役場や曳山博物館(同)には手芸家・木田則子さんの教室に参加した生徒が作った「つるしびな」が展示された。つりひもに鞠などの飾りが付いている。周辺の店先にも陶器や押し花、和菓子で作られたひな人形や江戸時代の享保びなや紙びななどが並び、観光客は一軒ごとに足を止め「かわいいね」「きれいだね」などと話しながら写真を撮っていた。

【長浜通信部・長谷川隆広】

長浜 街角でお雛さまめぐり NPO法人「まちづくり役場」

湖東

彦根城西方の琵琶湖岸にある彦根市長曾根町の自治会が、地元史の研究と記録に取り組んでいる。長曾根は平安時代、貴族が荘園として開発したとされる。長曾根町民会館の前には「虎徹の井戸」と呼ばれる石碑が残り、江戸時代の刀匠、長曾根虎徹が、ここで焼き入れたとの伝説もある。北村忠雄さん(66)ら十数人が研究会を組織。まず2017年、昔の風景や暮らしを表現した「ふるさと絵図」を完成させた。21年にはカラー写真や年表などを盛り込んだ郷土史(A4判、252ページ)を発刊。昨年は井伊家が進出する前の彦根を想定。中世のジオラマ模型を作り上げた。また最近も千数百点の古文書をデジタル撮影し、約300ページの目録もまとめたばかりだ。北村さんは「地域資料として中世の彦根をジオラマ模型にした長曾根町自治会員ら

研究者らに公開していきたい」と話す。問い合わせは090・3924・2998。

【彦根通信部・伊藤信司】

彦根 長曾根町の歴史刻む 自治会が絵図やジオラマ

彦根 家康の佐和山攻め陣に看板 雨壺山に地元研究会など

徳川家康が石田三成の居城を攻めた際の本陣に、アルミ製の説明板が設置された。場所は彦根市後三条町の長久寺裏手にある雨壺山(あまつぼやま)北端。佐和山城研究会(田附清子代表)と淡海歴史文化研究所(太田浩司所長)が個人や団体から資金約20万円を集め、昨年11月に除幕された。横60センチ、縦45センチの板は「徳川家康が陣した雨壺山」と題している。説明文によると、1600(慶長5)年9月15日、関ヶ原の戦いに敗れた三成は伊吹山のふもとを現在の長浜市木之本町古橋に向かつて逃走。勝った家康は三成の



【彦根通信部・伊藤信司】 右から、近付(板見)の中央(影)の山(吹)の陣(伊)康(望)家(側)

長浜 「下坂家文書」デジタルで複製 富士フィルムBI福井が市に寄贈

長浜市DX(デジタルトランスフォーメーション)実践プロジェクトに参加した富士フィルムBI福井が複製した「下坂家文書」8点が、同社から市に寄贈された。プロジェクトは伝統文書複製による次世代への文化継承を目的とし、同社が最新のデジタル技術を活用し、中世の地侍だった下坂家に伝わる文

書を複製した。同社DX推進室の山村哲也室長が「先人の教えや知恵を将来世代に伝えていきたい」とあいさつ。江畑仁資副市長が「今後、複製物の展示を通じて市民に古里への誇りと愛着を感じてもらいたい」と市長メッセージを代読した。寄贈された8点は絵と古文書で、手で触れることもできる。「阿弥陀三尊来迎図」は縦146センチ、横87センチと大きく、室町時代に描かれた実物同様の金色の風合いが出ている。市指定文化財の「下坂家系図」は長さ10センチ以上もあるが、忠実に再現されている。

【長浜通信部・長谷川隆広】